



# 行政視察報告書

\*期 日 令和2年1月21日(火)～1月22日(水)

\*調査地 兵庫県尼崎市

尼崎版観光地域づくり推進事業について

茨城県古河市議会

産業建設常任委員会

\*関係資料については、議会事務局に保管してあります。

令和2年3月19日報告

委員長	佐藤	稔
副委員長	増田	悟
委員	鈴木	隆
委員	赤坂	育男
委員	倉持	健一
委員	渡邊	澄夫
委員	黒川	輝男

## 【尼崎市の概要】

兵庫県の南東端に位置し、市域の東は神崎川、左門殿川を隔てて大阪市と、猪名川を挟んで豊中市と接し、北は伊丹市と、西は武庫川を境に西宮市と接し、南は大阪湾に面している。

兵庫県下第4位の規模の人口を有しており、中核市の指定を受ける以前の1948年から保健所政令市に指定されている。また、平成28年には市制施行100周年を迎え、近年は人口増加にも転じている。

主に市南部に工業地域、中南部には商業地域、そして市中部から北部にかけて住宅地が広がる形で発展している。また、南部の海岸部は、かつて阪神工業地帯の中心部であったが、埋立地の部分が多く、海拔ゼロメートル以下の地域が少なくない。鉄道は阪神電車、JR、阪急電車が東西に走っていて、大阪や神戸、京都や奈良へも乗り換えなしでアクセスできる。

近年は、JR西日本や阪神沿線を中心とした市中南部の再開発事業にも力を入れており、これらの地域でも高層マンション群や巨大商業施設が多くみられるようになった。JR尼崎駅北側では大規模な再開発地域（アミューズ潮江、あまがさき緑遊新都心）が整備されている。平成30年には「本当に住みやすい街大賞2018in関西」でJR尼崎駅周辺が第1位に選ばれている。

- 人口：451,507人（R2.1.1現在）
- 世帯数：218,813世帯（R2.1.1現在）
- 面積：50.72k㎡

### 調査事項

○尼崎版観光地域づくり推進事業について

1. 事業の概要について
2. 実施した（実施している）内容と効果について
3. 今後の展開及び課題について

## 調査事項

### 尼崎版観光地域づくり推進事業について

#### ①事業の概要について

##### ○都心と歴史文化ゾーンが調和した交流と学びの拠点の創生

尼崎城や城址公園、歴史観機能の整備を機に、市のイメージを一新する歴史・文化を取り込んだ観光施策を中心市街地である阪神尼崎駅周辺で展開し、周遊性を高め賑わいを創出するとともに、消費需要の喚起・経済活動の活性化を推進することで地域活力の低下を食い止め、シビックプライドの醸成につなげる。



##### 平成30年度 観光 観光誘導サイン整備基本計画の策定

城址公園や尼崎城、歴史観機能を始め、11カ寺が軒を連ねる寺町や、昭和初期の近代建築物である旧開明小学校、旧尼崎警察署といった地域の歴史資源、中央・三和商店街などの商業資源、総合文化センターなどの文化資源など多くの魅力的なコンテンツが集積しており、これらを周遊するルートに、円滑な案内・誘導を促す為視覚的に有効な観光案内情報板を設置する。

策定にあたってはワークショップを開催することによって、市民が提供を求めている情報について生の声を聞き、参加者が地区の歴史や文化、周辺のまちづくりについてさらに学習する契機となり、地域への愛着を醸成する場としても機能している。

##### ○ターゲット

- 【国内】・関西在住の日帰り観光客
  - ・情報発信力の高い20～40代の女性
- 【国外】・市内ホテル等の宿泊者
  - ・関西（特に大阪）に訪れる個人旅行者



①地域の稼ぐ力の向上
観光による ②まちの魅力と価値の向上
③シビックプライドの醸成

## ②実施した（実施している）内容と効果について

### ○実施内容

【平成28年～平成32年】

- ・社会資本総合整備計画  
『都心と歴史文化ゾーンが調和した交流と学びの拠点の創生』

【平成27年】

- ・上記計画内で整備する城址公園内に、お城を建設して寄贈したいとの申し出があり、尼崎城の再建プロジェクトが始動。

【平成29年～】

- ・尼崎市では初めてとなる「観光」と名のつく担当部署である「観光地域づくり推進担当」を設置し、尼崎城の再建を契機とした観光に注力した施策を重点施策として着手。

【平成30年～】

- ・観光施策の着実な推進に向けた舵取り役として「一般社団法人あまがさき観光局」が始動。

【平成30年11月】

- ・尼崎城寄贈

【平成31年3月29日】

- ・尼崎城一般公開
- ・商店街の活性化

### ○実施事業

#### ハード事業

- ・城址公園整備事業
- ・交流・観光ガイド機能具备了展示の整備  
(尼崎城の内部活用事業)
- ・歴史観機能整備事業

#### ソフト事業

- ・地域資源をつなぐ周遊施策の実施  
(観光地域づくり推進事業、サイン基本計画策定)
- ・魅力あるコンテンツの発掘・展開  
(観光地域づくり推進事業)
- ・イベント等を通してまちづくり機運の醸成  
(城内まちづくり推進事業)

○お城を活かした都市間連携

歴史上の関わりの強い岐阜県大垣市、郡上市と3都市4城連携協定を締結し、シンポジウム等開催など、さまざまな取り組みを行っている。

**③今後の展開及び課題等について**

○(仮称)歴史博物館との連携による周遊促進

令和2年秋頃に一般公開予定の(仮称)歴史博物館と尼崎城が企画展等で連携することで、地域内の更なる周遊促進を図る。

○外部人材の登用

あまがさき観光局を中心として、観光地域づくりを推進していく中で、観光の総合プロデューサーを担える民間からの人材を観光局内で登用し、民間ノウハウや専門知識を最大限活用できる体制を整える。

○大阪観光局との連携強化

近年1,000万人以上の外国人観光客が訪れる大阪府のおおさか観光局との連携を強化していく中で「大阪周遊パス」に参加することで、外国人観光客の誘客を図っていく。

## 【視察後記】

今回の委員会行政視察は、尼崎市の「観光地域づくり推進事業」の取り組みについて、尼崎城および城址公園の整備事業を中心に、その経緯と取り組みについて学んで来た。

尼崎市では、地域の資源を生かした観光振興を進めており、地域の稼ぐ力やまちの魅力の向上、地域に対する誇りと愛着を高めていく取り組みが進められている。最大の特徴は平成31年3月に公開された尼崎城を中心に、市内外から訪れる人を繋ぎ、まち全体に更なる賑わいを広げることを目的に、その取り組みを推進しているところである。具体的には、一般社団法人あまがさき観光局を中心に、ウェブサイトを活用した情報発信をはじめ、マーケティングに基づく事業展開とエリアマネジメントや、観光案内所の充実などの観光地経営を関係者とともに行っている。

これらの内容を精査し、古河市での新たな取り組みを考えた時、尼崎市の最大の強みが尼崎城の存在であることと、天守の寄贈をはじめ城の構成の多くが市民からの城主寄付制度の中で進められていることを考慮しなければならない。数多くある古河市内の観光資源を今後どのように活用していくかを、今回の尼崎市の例を参考に積極的に取り入れて参りたい。

## 【視察風景】



兵庫県尼崎市 視察